

第 125 回医療ビジネス研究会のご案内

我が国におきましては少子化、高齢化の進展による影響が至る所で顕在化しています。生産年齢人口(15～64歳)の減少はあらゆる分野で有効求人倍率を押し上げ、特にサービス業におきましては人手不足が深刻化しております。医療や介護などの福祉分野におきましても例外ではありません。事業主体のみならず国、都道府県、自治体も人材確保に余念がありません。

その対応策として、処遇そのものを魅力あるものへと改善する取組みはもとより、外国人の登用、障がい者の社会進出、機械化などが推進されています。画一的な労働形態や同質的労働力に依存することは今や昔、多様性を尊重し柔軟な対応やしなやかな発想が求められているようです。反面、税や健康保険の依存度が高い福祉分野におきましては制度上の制約などから、新しい取組みに関しては保守的な状況は否めませんが、今回は医療法人の先進的な取組みに関しまして玉木氏より解説頂きます。

同氏が理事長を務める(医社)幹人会では、将来の介護需要の伸びに柔軟に対応できるよう、あらゆる分野での最先端技術の導入を推進しております。記録方法はタブレット端末を使用し、各種データをクラウド化し各事業所で共有、地域連携促進のため SNS を活用するなど、機械化、省力化に着手してきました。平成 27 年度には介護者の移乗負担軽減のためのロボット、「HAL 介護支援用(腰タイプ)」を導入。平成 28 年からは同法人の老健が、その他多様な介護ロボット・福祉用具の実証研究に参画し、東京都と共同で成果の報告や普及活動に取り組んでおります。

介護とロボットの関わりを科学的に検証することで、本来、人が人を癒し介護し看ることの本質を見極め、ロボットに頼らざるを得なくなった時代について考え、地域社会とその課題を共有することを目指し、Ⅰ介護職員の腰痛予防、Ⅱ認知症の方への効果の検証、Ⅲ人と介護ロボットとの役割分担検討、Ⅳロボットならではの気づきの活用、Ⅴ療養者自身がロボットを身に着けリハビリに役立てる活動等に取組まれています。

今回は、究極のサービス業ともいえる福祉業界での、これらの取組報告とサイバーダイン社の HAL 実装体験コーナーを併せた内容となっております。医療・介護・リハビリ分野の方はもとより、人手不足に苦慮される企業や業界の方にも、それぞれの近未来像をイメージする一助となることを願って開催致す次第です。是非ともご参加頂きたくご案内申し上げます。

2018 年 2 月

特定非営利活動法人 医療事業再生機構

記

- テーマ:「医療・介護・リハにおけるロボット活用現況」=都ロボットモデル事業報告と HAL 実演=
- 講師:玉木一弘 氏 医学博士、(医社)幹人会 理事長、(一般社団) 西多摩医師会会長、(特非)医療事業再生機構 理事
幹人会ロボッププロジェクトチーム及びサイバーダイン社の皆さん
- 開催日時:2018 年 3 月 20 日(火曜日)18:30～20:30

以上

※ 医療ビジネス研究会の参加には受講票が必要です。
参加を希望される方はお手数ですがホームページよりお申込ください。